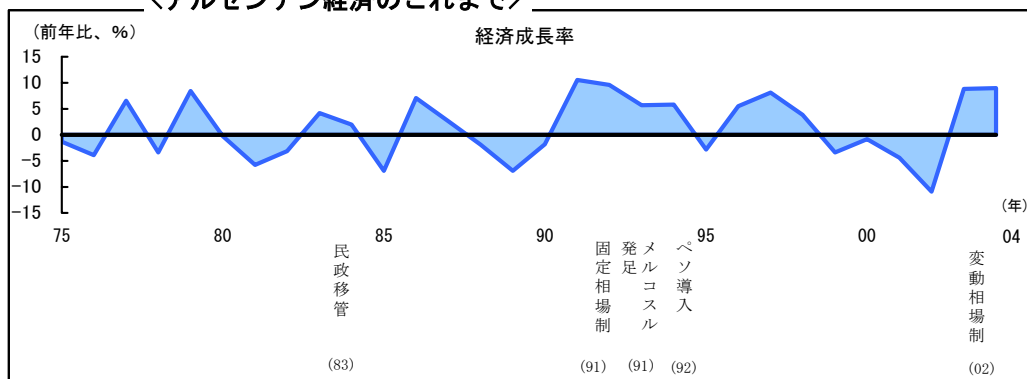


&lt;2004年&gt;

人口	3,843 万人	財政会計年度	1月～12月
	(日本の約1/3)	為替制度	変動相場制
一人当たりGDP	3,982 ドル	通貨	ペソ
産業構造(GDP構成比)	1次産業 10.4 %		1米ドル=2.9ペソ
	2次産業 35.6 %	面積 273.7万km <sup>2</sup> (日本の約7倍)	
	3次産業 54.0 %		

## &lt;アルゼンチン経済のこれまで&gt;



## アルゼンチンの主要経済指標

		94～03年	2004年	2005年		2006年		民間機関
				政府	IMF	政府	IMF	
実質GDP	前年比%	0.1	9.0	6.5	7.5	4.0	4.2	実質GDP
鉱工業生産	同上	▲1.7	10.7	—	—	—	—	2005年
消費者物価	同上	4.2	4.4	—	9.5	—	10.4	平均 7.5
失業率	%	15.0	17.3	—	—	—	—	最大 7.8
経常収支	億米ドル	—	33.5	—	—	—	—	最小 7.2
(GDP比)	%	—	(2.2)	—	(1.3)	—	(0.1)	2006年
財政収支	億米ドル	—	4.5	—	—	—	—	平均 4.0
(GDP比、年度)	%	—	(2.6)	—	—	—	—	最大 5.0
政府債務残高	億米ドル	—	1,913	—	—	—	—	最小 3.3
(GDP比、年度末)	%	—	125.6	—	—	—	—	(6社)

(備考) 1. アルゼンチン経済省、IMF “International Financial Statistics”、データストリーム。

見通しの政府は財務省 (2004年9月)、IMFは“World Economic Outlook” (2005年9月) による。

2. 実質GDPの93～02年は94～02年の平均、鉱工業生産の93～02年は95～02年の平均。

3. 失業率は2003年から推計方法が改定された。

## &lt;2005～2006年の経済&gt;

2005年前半の経済成長率は、好調な商品市況を受けて外需が好調なことに加え、消費や設備投資など内需の成長も加速したことから、前年比9%程度と高い伸びが続いている。

一方、景気回復が続く中でインフレ圧力が高まっており、05年上期の消費者物価上昇率は前年比8.5%となった。このため、年初より中央銀行は累計1.75%の引締めを行っており、年後半から06年にかけて、成長は緩やかに減速することが見込まれる。05年の経済成長率は、7%、06年は4%程度が見込まれている (中央政府見通し6.5%、IMF見通し7.5%、民間機関6社平均見通し7.5% (2005年10月時点))。

なお、対外債務問題については、同意を得られた投資家との間でデフォルト債券から新発債券への交換が終了した。しかし、引き続き、債務交換に応じなかった投資家との交渉やIMFとの間の融資の再開についての協議等大きな課題が残っている。